

主題提示としての「ッテ」の談話機能 人称代名詞に後続する「ッテ」

朴 序敬

0 . はじめに

本論考では人称代名詞に付く「ッテ」に注目し、その構文を中心に「ッテ」の談話的機能を考察する。人称代名詞に「ッテ」が付く場合、それはどのような状況でどのような談話的機能を果たしているのか、また「私ッテ」のように、「引用」という観点から見ると一人称代名詞に付くことが不可能であると思われる「ッテ」の談話的機能について考察する。この際、助詞「は」との意味的相違と主題提示機能における相違についても談話機能から説明することを試みる。本稿の考察対象は以下のような「ッテ」である。

(例)

私ッテダメね。

私ッテ色気ないですか。

私ッテ、うそのつけない人じゃないですか。

俺ッテ地球にやさしい男だったんだ。

あなたッテ気の毒な人だと思うわ。

1 . 「ッテ」の先行研究

1 . 1 . 「ッテ」の基本的な機能

「ッテ」は本来は「という」「とは」「というのは」と同様の伝聞・引用形式である。しかし、「は」の位置に「ッテ」が現れる例が見られることから、「ッテ」に主題を設

朴 序敬

定する働きがあるという見方が生まれ、「ッテ」の主題提示機能に関する研究がなされている。

「ッテ」は名詞句においては「NP 1 という NP 2」のような捉え直し、言葉の再現(引用)、また文においては、「Sと聞いた」「Sと聞いた」の引用、伝聞の縮約形とされる。¹「ッテ」と「という」「とは」「というのは」の使用範囲について藤村(1993: p. 46-47)は「ッテ」は引用の格助詞「と」の文体的なバリエーションとして用いられ、「ッテ」に置き換わるのは引用の「と」² だけであり、「とは」や「というのは」より使用の制限が緩いと述べている。

また、丹羽(1994)では述部が属性を表す場合、「ッテ」と「というのは」はほぼ同じであり、「とは」の方は本質的な属性が評価を表すとされる。

(1) コウモリとは、哺乳類だ。

丹羽(1994)によれば、文末要素としての「ッテ」は伝聞、引用を表すが、NPに後続する「ッテ」は主題提示としての機能と引用としての機能を担っている。「ッテ」によって問い直される文のNPは、先行文脈に既出の主題であると同時に、そのまま引き写された言葉の再現という引用的要素をも持っている。

通常「は」によって主題化される普通名詞は既知のものでなければならない。しかし、例えば、次の例の場合の「私の彼」は話者Bにとっては既知ではなく、まだ既知³ として確認できてない情報である。従ってBの発言中の「彼ッテ」は引用機能を持っている主題であると言える。そのため「は」に置き換えることは不可能である。

(2)

A: ねえ、あの人、私の彼に似ていない。

¹ 「NP」は「Noun Phrase(名詞句)」、「S」は「Sentence(文)」を表す。

² 「ッテ」は引用の「と」だけに置き換わる(藤村1993)。

(例) 太郎にあったら、早くお帰り {と/ッテ} 言ってください。

昨日は、子ども {と/*ッテ} 遊んだよ。

先生を学生 {と/*ッテ} 間違えた。

³ 以下では「既知」を次のように定義する。既知とは、指示対象が話し手と聞き手の間で一致しているということである。

B: 彼ッテ、鈴木君。 (『現代日本語コース中級 』)

1.2. 主題位置に現れる「ッテ」

丹羽(1994)は「ッテ」には話者が新たに主題を設定するという性格があり、唐突にある人物を話題にする場合、「ッテ」の方がより自然であると述べている。

(3)

(3.1) (ふだん話しているというのではない人物について、いきなり)

ねえ、山田さん{ッテ/?は}面白い人だねえ。

(3.2) ねえ、山田さんの奥さん{ッテ/?は}交通事故で大怪我したんですって。

(3.3) (喫茶店の前を通りかかって)太郎{ッテ/?は}ここでバイトしてるんだって。

丹羽は「というのは」「とは」「は」に置き換えが不可能な例を取り上げ、「は」による主題との相違点を検討し、主題助詞「は」が現れにくい談話の冒頭文において出現することから、「ッテ」は引用と主題提示の二つの機能を兼ね備えるものであると論じている。

引用と伝聞を表すものとしての「ッテ」には主題をマークする機能があると考えられるが、丹羽による主題提示の「ッテ」には主題として提示される事物がいかなる属性を持ち、いかなる状況にあるかを捉え直す場合と、当該文脈において存在するか否かを捉え直す場合の二種類があるということになる。前者は属性文と状態文、後者は存在文の場合である。これは「ッテ」を許容する文の制約条件でもある。すなわち「ッテ」は動的述語文には現れにくく、状態性述語文のみに用いられると考えられる。

有田・田窪(1995)は対話を知識ベースの更新操作とみる立場から言語運用をモデル化し、その記憶の操作としての「は」について論じている。話者がX(指示対象)について語るとき、話者はXに関する諸々の属性を記憶したXのファイルから情報を取り出したり、取り入れたりすると仮定する。「は」は、記憶された情報をファイルから取り出す際に使用される形式であるに対して、「ッテ」はXに関する新たな属性Yをファイルに取り入れるときに使われる形式であると見なす。つま

朴 序敬

り、「ッテ」による主題化は、言葉そのものの意味内容を問題にするのではなく、新しくファイルに取り入れるという情報操作である(新しく情報をファイルに取り入れる操作の一部である)。これは「ッテ」のメタ言語的性格によると見られる。「ッテ」は話し手が持っているXという情報が間接的なものであり、かつ引用的性格を帯びていることを示すことができる。従って「ッテ」を用いた場合はXに関してその場、その発話時点ではじめて気づいた事実や発見、再発見であるという意味を与えることができる。「ッテ」は改めて気づき、再確認、再認識した情報を取り入れるプロセスに用いられると言える。この場合「ッテ」を「は」に置き換えると表現意図(ニュアンス)が異なってくる。

(4)

(4.1) a. メールッテ本当にすごいですね。 a'.メールは本当にすごいですね。

(4.2) b. 日本語ッテ難しいですね。 b'.日本語は難しいですね。

また、守時(1994)は「ッテ」の「聞き手からの発話を繰り返す」という性質に注目し、「というのは」などの言語形式との関係について考察している。「ッテ」は情報源からの情報がコンテキストの一部、つまり了解事項として認められないものに用いるとし、情報源からの情報が適切に理解されてないことを示す談話的機能を持つと指摘する。このような「ッテ」の間接性、引用標識としての性格は既知のものを主題化する「は」とは異なる談話的機能である。

いずれにしても「ッテ」には、言葉を再現して提示する用法と「は」とは異なる主題提示の用法があると言える。またその際、「ッテ」には常に引用としての性格があると言える。

2. 「人称代名詞 + という」による捉え直し

丹羽(1994)でも指摘されているが、「ッテ」は「これ」などの指示詞に後続することがある。指示詞に後続する「ッテ」や「私ッテ」のような一人称代名詞に付く「ッテ」の使用は引用表現としてだけでは説明できない現象である。以下ではこのような、引用から離れた、使用域の拡張と思える用例を「ッテ」による捉え直しの機能として取り上げ、その表現を談話的観点から考察する。

2. 1. 「人称代名詞 + という」による捉え直し

ここでは、人称代名詞に引用形式が付き、捉え直されるのはどのような状況、文脈においてであるかについて検討する。

日本語の人称代名詞「わたし」「あなた」は一見したところ英語の「I」「you」に相当するようにも思われるが、その意味と機能は英語の「I」「you」とは異なる。つまり日本語では人称代名詞は一つ使わなくても前後の文脈から察することができるので、会話の中では省略されることが多い。しかし、自己紹介や、意思表示という自分を提示する(指す)必要があるときは一人称代名詞を使わなければならない。⁴

人称代名詞が使われる表現に「という」を用いる捉え直し用法がある。以下の例は引用形式を用いて人称代名詞を捉え直す場合である。

(5)

(5.1) ぼくをわらっている。ぼくをまたからかっている。ぼくには自分というものが分かっているから、とぼくは言った。 - 「何なの、あなたというものは」 (『コレクター(下)』)

(5.2) どこまで駄目なんだ、お前ッテ男は。 (『男はつらいよ』)

(5.3) あなたという人が分かったわ。あなたは《海の老人》よ。 (『コレクター(下)』)

(5.4) あなたにはぜんぜん分からないんだ、ぼくという人間が。 (『コレクター(下)』)

(5.5) もし自由の身になれば、またあなたにあいたいわ。あなたという人間

⁴ 自己紹介において、一人称代名詞の後に従う助詞には「は」「が」「の」の3種類があり、それぞれ異なる役割を持つ(藤原1992)。

(例) 僕は、この会社の副社長です。
 僕が、この会社の副社長です。
 僕の、この会社の副社長です。

藤原(1992)によれば、「は」の省略は、文要素の連結を断ち切ることで命題のもつ直接性を回避していると指摘する。つまり「わたくし」の後に助詞「は」を省略することで発話全体を2分割し、それにより命題の論理的構造を弱めているという。

(例) わたくしは山田と申します。

朴 序敬

- に興味があるから。 (『コレクター(下)』)
- (5.6) もし私ッテという人間がいなければ、皆さん、今日この劇場にこうやって
坐ってはいらっしゃらないでしょう？ (『雪の女王』)
- (5.7) うん、その裏切りを教えてくれたとは実に有難い。お前という人物がこ
れでいよいよはっきりした。 (『モリエール』)

「NP1 という NP2」のように「という」を用いる捉え直しにはNP1 が指示するものが聞き手にまだ知られていないことを示す場合と知られているものに用いる場合がある。丹羽(1993)によれば、基本的に「NP1 という NP2」は名を引用して、その名と対象を同定するもので、例えば、「昨日山田という人に会った」の場合は「山田」のことを聞き手が知らないと話者が思っている場合であり、「昨日山田に会ったよ」とは異なる。ある名詞に関してその指示対象が話者と聴者の間の一方にのみ知られている場合、その名詞を談話にそのまま導入することができないという制約がある(田窪1989)。この制約を受けることを避けるために、話者と聴者が共通に知っていると考えられる上位名詞「人」を用い、その人が「山田」という名を持つことを示す(丹羽1993)。このように名前を同定する「という」は話し手が、聞き手がまだ知らないと思う指示対象を示す場合に用いられる。一方、知られている指示対象の場合は改めて同定して捉え直すことによってその対象への再注目が促される、または強調⁵が行なわれると考えられる。話者と聴者の間で共有されている、知られている指示対象である人称代名詞の場合は対象への再注目を促す効果が認められる。

また「という」という表現は表現自体を示すことができるメタ言語的な特性を持つ(メイナード1994)。「というのは」の前に来る指示対象は定義または説明される

⁵ 以下は「という」が「強調」を表す場合である。名詞を反復し捉え直すことによって指示対象の「全て」という意味を与えられる。

- (例) お前も不幸という不幸はみんな忘れて、楽しくして貰わねばならん。 (『シンデレラ』)
- 私は隅っこという隅っこを全部探し始めます。 (『雪の女王』)
- きっと今頃は、教会という教会で警鐘をならしているさ。 (『ドンキホーテ』)
- 有名な町という町は全部、俺は行っているんだ。 (『脱出』)
- 旦那様の大切な書齋を部屋ごと、それに本という本も全部攫って行きました。 (『ドンキホーテ』)

べき主題である。人称代名詞に「という」が付き、その指示対象を捉え直すのは、メタ言語的用法と関連する。森田(1995)は、日本人ははっきり「あなたは～」ということに抵抗があり、「あなたという人は～」と遠回しに表現しようとする傾向があることを指摘している。「という」を付けることによって、取り上げた事柄に対する焦点範囲を広げ、もっと一般化した形で述べようとする説明している。より概念的で、特定の時や所に限定しない一般的なこととして取り上げる意識が「お前という奴は～」とか、「東京という街は～」のように一般名詞として取り上げることによるぼかしの効果を生み、直接的な物の言い方を緩和していると述べている。

日本語の特徴の一つとされるぼかし表現は個人の主張や意見ではない世間一般の話として、断定を避ける表現として用いられる。このように引用を用いた間接的な物の言い方(表現の間接化)は日本語ではしばしば婉曲な表現になる。森田によると、間接的な表現を用いる意図は主に、相手への遠慮や、相手を奉る気持ち、「外」の相手として敬遠する意識に起因すると説明される。

2.2. 「二人称代名詞+ッテ」による捉え直し

二人称代名詞「あなた」に「ッテ」が後続する場合、これは「あなたという人は」に解釈され、焦点範囲を広げた、客観的かつ一般化した形にして捉え直す表現になる。「あなた」という人に改めて得た何かを加える、つまり「あなた」に対する情報の更新が行なわれる。

(6)

(6.1) あなたッテきれい好きなのね。 (『コレクター(上)』)

(6.2) 面白い方ね、あなたッテ。 (『男はつらいよ』)

また「ッテ」の後続によって責める気持ちや驚き、意外性というニュアンスを示すこともできる。このように「ッテ」で主題化された二人称代名詞は「あなた」に対して新たに加わる属性を取り入れる操作の一部である。「ッテ」を用いて捉え直し、提示することにより、発話の時点で新たに気づいた属性の認識を表明する。

(7)

(7.1) あなたッテ気の毒な人だと思っわ。 (『コレクター(上)』)

朴 序敬

- (7.2) ほんとうに変なひとね、あなたツテ。 (『コレクター(上)』)
- (7.3) ほんとに馬鹿ね、あなたツテ。 (『コレクター(上)』)
- (7.4) あなたツテ物事をまじめに考えたり論じ合ったりする人と付き合ったことがないのね。 (『コレクター(上)』)
- (7.5) あなたツテ頭がよいのねえ、尊敬しちゃうわ。 (『毎日新聞』)
- (7.6) あなたツテそうやっていつも最初から諦めていることが多いんじゃないの。 (『毎日新聞』)
- (7.7) お前ツテ本当に意地が悪いなあ。 (『毎日新聞』)
- (7.8) お前ツテ本当にいいやつだな。 (『毎日新聞』)
- (7.9) 「あんたツテ、ほんとうに不器用なんだから」と彼女は軽蔑をこめて言った。 (『東京発千夜一夜(上)』)

「ツテ」に新たに気づいた属性の認識を表す性格があるのは、改めて何かを言うという気持ちを表す副詞、例えば「実は」「本当に」「改めて」「やっぱり」などと共起して用いられる傾向からも分かる。

- (8)
- (8.1) 今年こそ『宮崎美子ツテ実はキレイな女優だったのね』と言われるようになりたい。 (『毎日新聞』)
- (8.2) 素敵で美しい自然の中にいましたが、スクリーンで見たらアングルのせいでしょうか、私の記憶よりももっともっと素敵に見えて、映画ツテ不思議なもの、とあらためて思いました。 (『毎日新聞』)
- (8.3) 田村さんツテ一見、変な人っぽいけど、本当に変な人だよ。 (『毎日新聞』)
- (8.4) やっぱり男手ツテ必要ね。 (『男はつらいよ』)
- (8.5) やっぱりいいのね、兄弟ツテ。 (『男はつらいよ』)

2.3. 「一人称代名詞+ツテ」による捉え直し

「引用」という観点から見ると、本来一人称代名詞に「ツテ」は後続しないはずである。しかし「私」や「おれ」「僕」のような一人称代名詞に「ツテ」が後続する場合が見られる。主題としての一人称代名詞には普通「は」が付く。⁶ところが、この主

題を提示する「は」の位置に「ッテ」が用いられる場合が見られる。

- (9)
- (9.1) 私ッテダメね。 (『捨てる！技術』)
- (9.2) もともと私ッテ、親切なやさしい男のひとは好きなのよ。
(『コレクター(上)』)
- (9.3) ごめんなさいね、あたしッテ頭の中がアツケラカンだから。でも続けて。
お勉強だと思って聞くから。 (『東京発千夜一夜(下)』)
- (9.4) 私ッテ結構神経質なのよ。食事中に音楽が聴こえると、気持ちがそっち
へいっちゃって味がわかんなくなるの。 (『東京発千夜一夜(下)』)
- (9.5) そういえばこないだ行ったイタリアの店、すごく良かったわよ。どっち
かというと私好みね、あの店。来てる人種がとにかくオシャレなのよ。
私ッテ、雰囲気を大事にする人でしょ、だから。
(『東京発千夜一夜(下)』)
- (9.6) 小学校4年性の次男は服装にこだわらない。「小学校の体操着は、お兄ちゃん
のお下がりがあから新しいのを買ったことはないな」と言うと、
「えーっ、おれッテ地球環境にやさしい男だったんだ！」と感激していた。
(『朝日新聞』)

「は」の位置に「ッテ」を用いても文法的な意味の相違は見られないが、語用論的意味の相違は存在すると思われる。ここで「は」の代わりに「ッテ」を用いることによって表される話し手の意図について検討する。

⁶ 寺村(1991:52)は、主題化が必要な名詞句の性質の一つとして「初出の名詞句が特定の対象を指示する場合」を指摘している。一つの談話の最初の文で、話し手が自分自身について何か言うか、あるいはその他、聞き手について何か尋ねるか、あるいは聞き手の視野にあるものを指し、それについて何か言うか尋ねるかするときは、その対象を主題として取り立て、『Xハ』で文をはじめるのが普通である。述語の補足語が特定の対象を指示する場合、これは聞き手にとって既知であり、聞き手の視野に既に入っているもので、述語の補足語は聞き手にとって新しい情報にはなり得ない。従って「は」によって取り立てられることになる。述語の補足語が特定の対象を指示するというのは、代名詞や固有名詞の基本的な性質である。特に、一・二人称の代名詞は常に特定の対象を指示すると言える。このように一・二人称の代名詞は聞き手にとって新しい情報になりにくいものであり、主題化の階層について議論する類型論研究の分野でも、一・二人称の代名詞は最も主題化されることが多い階層であることが指摘されている。

朴 序敬

まず、「私ッテ」「俺ッテ」という捉え直しは、聞き手の存在の有無によって、一方的な発信型の情報(特に独り言、独白)となる場合と聞き手に判断してもらう(判断を委ねる)表現となる場合の二つがある。聞き手が存在しない場合、もしくは聞き手に働きかけるのではない場合は、自分自身の中での既存知識や認識の修正が行なわれるものと見られる。

(10)

(10.1) 私ッテダメね。

(10.2) おれッテ地球にやさしい男だったんだ

上例のように一人称代名詞に「ッテ」が後続する場合、自分自身の認識に働きかけることによって認識の修正が行なわれる。自分自身には「私」という存在を確認させる必要がないにも関わらず、再認識する形をとることによって新たに自分を捉え直すことになる。

自分が自分を捉え直すことには、「ぼくという人間が」のように自分に焦点を合わせ、注目させる働きがある。

(11)

(11.1) あなたにはぜんぜん分からないんだ、ぼくという人間が。

(『コレクター(下)』)

(11.2) 俺という人間がちっともわかっていない。

(『講談社ブックス』)

一方、聞き手が存在する場合の「一人称代名詞+ッテ」は自分のことを相手に判断してもらう(判断を委ねる)表現であり、自分を客観的に捉え直そうとする心理作用が働いていると見られる。

(12)

(12.1) 私ッテ色気ないですか。

(12.2) 私ッテおかしいんでしょうか。

(『毎日新聞』)

(12.3) 俺ッテ惚れっぽいとことかあんのかなあ。どう思う？

(『パーチャス』)

(12.4) あたしッテ、やっぱり変？

(『いつか大人になる日まで』)

また、聞き手に働きかける「一人称代名詞+ッテ」は発話時点で新たに認識された事実を確認したり、同意を求めたり、新たな情報を求めたりする形である。さらに、まだ聞き手に認識されていないと思われることを語り、聞き手への自己アピールの機能を有することもある。

(13)

(13.1) 私ッテロマンチストなの。 (『毎日新聞』)

(13.2) 私ッテ一見女優々々して見られ、そういう女にサラリーマンの女房がつとまるかと思われてたみたいですが、一方で生活者の部分を強く持っています。 (『毎日新聞』)

(13.3) 私ッテさ、普段何もしてくれやしない相手にも尽くしちゃう損な性格なのよ。 (『毎日新聞』)

(13.4) 私ッテもともと、お転婆なんです。 (『毎日新聞』)

(13.5) 私ッテ、電車に乗って出勤だし、遊園地や映画で大喜びするし、自然に平凡なんです。 (『毎日新聞』)

(13.6) 変に敏感だからなあ、俺ッテ。 (『男はつらいよ』)

以上のように「一人称代名詞+ッテ」による捉え直しは、話し手自身をはじめて発見した自分のことを語る「自分への認識表明」と、話し手が話し手自身に関する情報を聞き手に新たに認識してもらうために自分を語る「聞き手への自己アピール」の二つに分けられる。これは認識表明という情報の更新(情報の修正と取り入れ)が行なわれるという点で二人称代名詞を捉え直す表現と共通する。

このように「捉え直し表現」は、客観的、一般的に捉え直すという観点から、一人称代名詞に用いられると、認識表明と自己アピールの手段に用法・意味が拡張され、使われるようになる。

2.4. 「固有名詞(人名)+ッテ」による捉え直し

固有名詞(人名)に「ッテ」が後続するのは、その人物が話し手と聞き手の間で同定された指示対象であるかのように表現する場合のみである。本来三人称である人名で指示される人物が話し手と聞き手の間で一致していない場合、つまり聞き手にその指示対象が知られていない場合は「という」が付加され、話し手と聞き手

朴 序敬

の間でまだ共有されてない指示対象(情報)であることが表現される。

(14) 昨日山田という人に会った。

固有名詞に「ッテ」が後続する場合は、話し手と聞き手の間で既に同定済みの指示対象である。「固有名詞+ッテ」は、話し手自身の現在の知識を聞き手の知識と同一化し、同じ認識状態にしようとする働きがあり、捉え直しによってその指示対象に対する属性を述べ、新たに注目させる効果が現れる。従ってこの際、話し手はその指示対象の存在を聞き手も知っていることを前提として発話する。

(15)

(15.1) (バイオリニスト葉加瀬太郎に対するインタビューの中で)

葉加瀬さんッテ様々なお仕事されているじゃないですか。

(『パーチャス』)

(15.2) それにしてもパイヤさんッテ、本当にたくさんの友達と、良いお付き合いをしてるんですね。

(『パーチャス』)

(15.3) 「ヒッチコックッテ、高所恐怖症じゃないですか」と言ったのは大学の安田君。「高いところの怖いシーンがやたら多いみたいな気がするけど」

(『東京発千夜一(下)』)

(15.4) 渥美清さんッテ、すごくおしゃれな人だったのよ。

(『毎日新聞』)

(15.5) 金田一君ッテ普段はボーッとしてるけどいざってなるとけっこー頼りになるじゃん？

(『金田一少年の事件簿』)

3．属性を表す述語と「人称代名詞+ッテ」

3．1．属性叙述文における「ッテ」と「は」

属性叙述というのは、述部がその指示対象の恒常的な状態を表したり、繰り返し起きる動作やできごとを表したりするものである。⁷ 例えば野田(1996)は、属性

⁷ 益岡(1987)の言う叙述とは、現実世界を対象としてあるひとまとまりの事柄を概念化することである。これには「属性叙述」「事象叙述」の二つの類型がある。

を表す述語のうち、「天才」のような名詞や「高い」のような形容詞はいつも恒常的な状態を表す述語として必ず主題を持つと述べている。しかし「は」が恒常的な状態や属性を表すのに対し、「ッテ」は一面を表したり、一回性のことを一種の経歴として属性化する性質を持つ。述部には指示対象の意味、真偽、語形、所属、評価に関する属性が示される(丹羽 1994)。

(16) サッカー{ッテ/は}、面白いですね。

この発話は、今までサッカーに興味がなかった人が初めてサッカーを観戦してそれをきっかけにサッカーの面白さに引かれた場合(新発見)と、そもそもサッカー好きの人がサッカーの面白さを改めて認識した場合(再発見)の二つが想定できる。「サッカーッテ面白いですね」と「サッカーは面白いですね」を比較した場合、「ッテ」は「は」とは異なり再発見、再認識の気持ちを表すことができる。

指示対象の意味や真偽、所属のような属性を表す述語は不変的内容を有する。そこでは恒常性が強く表現される。この場合指示対象は「は」を伴うことが多い。一方、物や人の評価に関わる属性を表す述語には、恒常的属性を表すものと、発話が行なわれるその場、その時点で初めて気づいた属性を一時的属性として捉えて表すものがある。前者の指示対象は「は」、後者の指示対象は「ッテ」と結び付いて表される。これは「ッテ」が一回性のことをも一種の経歴として属性化できる性質を有することによる。

(17)

(17.1) 山本先生は数学に詳しい。(恒常的属性)

(17.2) 山本先生ッテ数学に詳しいね。

「山本先生」という人物が数学に詳しい人であることを知らない話者は「ッテ」を

「属性叙述」とは、対象が有する属性(性質や特徴など)を叙述することである。「属性叙述文」は構造的には、対象を示す成分と、その対象の属性を表示する成分によって組み立てられる。両成分は依存関係にあり、構造的に必須成分である。対象表示成分は一般に「主題」の形式で表される。一方、「事象叙述」とは、出来事(動き)または静的状態(一般的状态)を叙述することである。「事象叙述文」は事象の全体像を集約的に表す述語と、事象への関与者を表す名詞句を中心に構成される。事象叙述文は、談話レベルの件によって有題文・無題文のいずれかで表現される。(益岡1987)

朴 序敬

用いてその属性に初めて気づいたことを表す。この場合、「数学に詳しい」という属性は恒常的属性であるが、話者にとっては発話が行なわれるこの時点で知ることができたため、この時点においては一時的属性として捉えられている。一時的属性は、話者にとって発話時点における既知の情報であるか未知の情報であるかということと関わっているので話者の立場からの解釈が必要である。

恒常的属性であっても話し手にとってその属性が未知の情報である場合は「新発見」となり、一時的属性のように捉えられる。

以上のように「は」と異なり「ッテ」によって指示対象を主題化した場合は「再発見」や「新発見」が表現される。「再発見」というのは恒常的属性を捉え直して表すものであり、「新発見」というのは発話時点における新たな発見、すなわち一時的属性である。⁸

3.2. 「人称代名詞 + ッテ」と属性を表す述語

「ッテ」に恒常的属性を表すものと、恒常的属性ではあっても発話が行なわれる場面に依存し、一時的属性として捉え直すものがあるということを述べた。以下では人称代名詞に「ッテ」が付く場合の属性について検討する。

「ッテ」が一時的属性を表す述語にも用いられる例として丹羽は次の例を挙げている。

(18)

(18.1) 山田さん { ッテ / ? というのは } 昨日交通事故で怪我したちゃったんですよ。

(18.2) 太郎 { ッテ / ? というのは } マックドナルドでバイトしてるんだって。

丹羽(1994)に指摘されているように「ッテ」は、一回性の属性を表す述語と共に用いられた場合でもその名詞句を主題化することができる。これは「は」の方が恒常的属性を表す傾向が強いためと考えられる。また、「ッテ」を用いた属性文は

⁸ 物や人に対する評価は人それぞれの見方や判断の基準によって異なり得る主観的な属性であり、時間の経過や場面によって変化しうる属性であると言える。しかし、時空間を超える不変の属性として評価できる人物で、例えば、天才科学者のエディソンに対する評価であれば、もし、天才科学者のエディソンのことを全く知らない人でなければ、「エディソンッテ天才ね」のような発話は不自然であろう。

「は」と異なり、意外性を強く表現する。従って、「あなたの目ッテ大きいね」は恒常的属性を表す「は」が用いられうる文であるが、「ッテ」を用いることによって今まで気づいてなかったことを新たに発見し、そのことに注目させ、意外性を表示するという効果が現れる。

しかし、属性を表す述語を恒常性と一回性(一時的状態)という観点から分類することは容易ではない。以下の例文を見てみる。

(19)

(19.1) あなたッテ天才!

(19.2) あなたッテ馬鹿ね。

(19.3) 私ッテダメね。

(19.4) 私ッテすごい。

(19.5) 男ッテみんな悲しい生き物だよ。(田窪からの引用)

野田(1996)は「天才」のような名詞や「高い」のような形容詞は一時的な状態を表すものではなく、恒常的な状態を表す述語であり、必ず主題をもつと述べている。しかし、「あなたッテ馬鹿ね」のような文は恒常的属性を表しているとは考えにくい。これは一時的属性であると見るべきであろう。上例の「ッテ」を「は」に置き換えた場合、話し手の意図は違ってくる。すなわち、「あなたッテ天才!」「あなたッテ馬鹿ね」の発話で、話し手が聞き手に伝えようとすることは、その場面や状況で相手が行った言動(言葉や行動)に対する判断、評価であり、本質的で、恒常的なことではない。またその一回性には「初めて気づいた」という属性も付随しており、「驚き」や「意外さ」の気持ちを表す。「私ッテダメね」「私ッテすごい」も同様で、その場で一時的に自分自身に言い聞かせる発話として捉えることができる。また「ッテ」は「彼ッテ頭いいよ」のように、場合によっては恒常的な状態を表すこともできる。このように、「ッテ」には恒常的属性のみならず、一回性の属性も表すことができ、「は」に比べ、その発話が行われる時空間、つまり現場とより密接な関わりをもっている。恒常的か一時的かの判断は表現そのものだけでなく、発話場面や状況に大きく依存すると言える。

また、上記の例文(19.5)の場合、「男」は総称名詞句として捉えられている。この例文は「人間は死ぬ」のように本質的な属性や評価を表す場合と同様に恒常的属

朴 序敬

性を表している。つまり、「男というものは」「男とは」に解釈できる。

本来「は」を伴うべき主題位置に「ッテ」が用いられる場合は「は」とは異なる話し手の表現意図があると考えられる。人称代名詞に「ッテ」が後続した名詞句には、恒常的属性を表すものと発話が行なわれるその時点のみの一時的属性を表すものがある。

以上のように恒常的属性を表すか一時的属性を表すかという発話意図は談話中ではじめて(コンテキストによって)判断できるものであると言えよう。従って、語用論的解釈が必要であると思われる。また、人称代名詞に付く「ッテ」は属性を表す述部と共起する場合、「は」が恒常的属性を表すのに対して、一回性の状態をも属性化する機能があると思われる。

4 . まとめ

以上、人称代名詞に後続する「ッテ」の談話機能について考察した。主題を提示する「ッテ」の特徴(性質)は以下のようにまとめられる。

- (1) 「ッテ」による主題提示は、新たな属性を取り入れる際に使われる。すなわち、発話時点で新たに認識された事柄に対する認識表明の標識である(「ッテ」の主題提示機能は、「ッテ」が本来「は」が置かれるべき位置に現れることによって生まれた機能であると思われる)。
- (2) 「ッテ」は「私」「おれ」「あなた」のような人称代名詞に後続する場合、話し手自身もしくは話し相手の事柄についての話題導入においては引用的要素を持ち、自分を客体化して捉えようとする心理的働きがあると思われる。これは「ッテ」の本質的な性質である引用形式から派生したと思われる。
 - (a) 一人称代名詞に「ッテ」が後続する場合、自分自身の認識に働きかけることによって認識の修正が行なわれる。自分自身には「私」という存在を確認させる必要はないにもかかわらず、再認識の機能をもつ「ッテ」を用いることによって新たに自分を捉え直す。また、聞き手が存在する場合の「一人称代名詞+ッテ」には、自分のことを相手に判断してもらうために自分を客体化して捉えようとする心理作用が働いてい

と思われる。また、まだ聞き手に認識されていないと思われることを語る場合、聞き手への自己アピールとして用いられる。

このように一人称代名詞に付く「ッテ」は話し手自身がはじめて発見した自分のことを語る「自分への認識表明」と聞き手にまだ認識されていないと思われることを語る「聞き手への自己アピール」の二つに分けられる。後者は話し手が話し手自身に関する情報を聞き手に新たに認識してもらう手段(語法、表現)の一つである。

- (b) 二人称代名詞に「ッテ」が後続する場合、間接的叙法として焦点範囲を広げた、客観的かつ一般化した形に捉え直す表現になる。「ッテ」で主題化された二人称代名詞は「あなた」に対する新たな属性を取り入れる操作の一部であると考えられる。発話の時点で新たに気づいた事柄を指示対象に「ッテ」を付けて捉え直し、提示することで新たな属性の認識を表明することができるようになる。

このように代名詞の捉え直し表現は、本来は客観的、一般的に捉え直す手段であったが、それが次第に一人称代名詞にまで拡張されて使われるようになったと思われる。

- (3) 「ッテ」は一時的属性を主題化することができる。属性を述べる述語文における「ッテ」には恒常的属性とともに一回性、一時性の属性も述べることができる性質があり、恒常的属性を表す「は」に比べ、その発話が行われる時空間との関わりが強い。眼前の事象を表すという性質からして「ッテ」は現場性が強いと言える。
- (4) 「ッテ」の談話的機能に「改めの気持ち」「意外性」の表現効果がある。「ッテ」の他に「も」「なら」など、提題機能をもつと見られる助詞がある。これらは「は」の代わりの提題機能を有する場合もあるが、「は」に置き換えが不可能な場合もある。その理由はこれらの助詞が本来の機能を残し、その働きをすることによると考えられる。「ッテ」による主題表現は、本来の引用的要素を保ちながら、談話的機能をも果たしていると思われる。

以上、本考では人称代名詞に付く「ッテ」に焦点を当て、その談話的機能を中心に考察した。人称代名詞に付く「ッテ」は「は」とは異なる談話的機能を持つと言える。しかし、「ッテ」と「主題提示」の関連性に関してはまだまだ検討の余地が残さ

朴 序敬

れている。また「ッテ」の主題提示機能は、属性を表す場合を含めて述語の状態性と関連性があると見られる。文章の成分が述語の性質より(述語との統語的關係から)格関係を成すことと同様に「ッテ」の主題意味も述語との関係から後に与えられたものと考えられる。上記の考察結果を踏まえて「ッテ」の用法をさらに明確にし、「は」とは異なる主題提示機能を持つ助詞として、その位置づけの可能性を検討することを今後の課題に残す。

<参考文献>

- 安達太郎(1999)『日本語疑問文における判断の諸相』、くろしお出版。
- 有田節子・田窪行則(1995)「日本語の提題形式の機能について」、『人間科学』1、九州大学。
- 江口 正(1998)「引用節・間接疑問節と内容名詞句の共起関係について」、『紀要』30、言語・文学編、愛知県立大学外国語学部。
- 岡本真一郎(1996)「情報への関与と文末形式」、『心理学評論』39 - 2、京都大文学部。
- 金水敏・田窪行則(1993)「談話管理理論からみた日本語の指示詞」、『指示詞』、ひつじ書房。
- 鎌田 修(1988)「日本語の伝達表現」、『日本語学』7 - 9、明治書院。
- 北原保雄(1984)『文法的に考える - 日本語の表現と文法 - 』、大修館書店。
- 砂川有里子他(1998)『日本語文型辞典』、くろしお出版。
- 鄭 相哲(1989)「日本語の問い返し疑問について」、『日本語学』8 - 8、明治書院。
- 田窪行則(1989)「名詞句のモダリティ」、『日本語のモダリティ』、くろしお出版。
- (1990)「対話における知識管理について 対話モデルからみた日本語の特徴」、『アジアの諸言語と一般言語学』、三省堂。
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味』、くろしお出版。
- 中畠孝幸(1990)「『という』の機能について」、『阪大日本語研究』2、大阪大日本学科。
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』、ひつじ書房。
- (1997)『日本語文法研究序説 - 日本語の記述文法を目指して』、くろしお

出版.

- 仁田義雄編(1995)『複文の研究(下)』、くろしお出版.
- 丹羽哲也(1993)「引用を表す連体複合辞『トイウ』」、『人文研究』、大阪市立大学文学部紀要 45 - 1 .
(1994)「主題提示の「って」と引用」、『人文研究』、大阪市立大学文学部、紀要 46 - 2 .
- 野田尚史(1996)『「は」と「が」』、くろしお出版.
- 野村雅昭(1997)「発話機能からみた落語の談話構造」、早稲田大学大学院文学研究科、紀要42 - 3 .
- 藤田保幸(1988)「『引用』論の視界」、『日本語学』7 - 9、明治書院 .
(1994)「引用されたコトバの記号論的位置づけと文法的性格」、『詞林』16、大阪大学 .
(1995)「～トハ」構文小考 「嘘をつくとはけしからん」などの表現について」、『滋賀大國文』33、滋賀大学 .
- 藤原雅憲(1992)「助詞省略の語用論的分析」、『日本語論究 3 現代日本語の研究』、和泉書院 .
- 藤村逸子(1993)「わからないコトバ、わからないモノ 『って』の用法をめぐって」、『言語文化論集』14 - 2、名古屋大学言語文化部 .
- 堀口純子(1995)「会話における引用の『ッテ』による終結について」、『日本語教育』85 - 3、日本語教育学会 .
(1995)『「～は～」のはなし』、ひつじ書房 .
(1997)『日本語教育と会話分析』、くろしお出版 .
- 森田良行(1995)『日本語の視点』、創拓社 .
- 益岡隆志(1987)『命題の文法』、くろしお出版 .
(1995)『日本語の主題取り立て』、くろしお出版 .
- 森山卓郎(1995)「『伝聞』考」、『京都教育大学国文学会誌』26、京都教育大学 .
- 守時なぎさ(1994)「話しことばにおける文末表現『ッテ』について」、『筑波応用言語学研究 1』、筑波大学 .
- 山崎 誠(1996)「引用・伝聞の『って』の用法」、『国立国語研究所報告17』、国立国語研究所 .
- 神尾昭雄・高見健一(1998)『談話と情報構造』、研究社出版 .

朴 序敬

米川明彦(1999)「手のひらの言語学 『ほらあ、わたしってえ、嘘のつけない人
じゃないですか』という言い方はおかしいですか」、『言語』5、大修館
書店。

泉子・K・メイナード(2000)『情意の言語学 - 「場交渉論」と日本語表現のパトス』、
くろしお出版。

(1997)『談話分析の可能性 理論・方法・日本語の表現性』、くろしお出
版。

(1994)「『という』表現の機能 話者の発想・発話態度の標識として」、
『言語』23 - 11、大修館書店。

国立国語研究所(2000)『認識のモダリティとその周辺 - 日本語・英語・中国語の
場合』、凡人社。

(2001)『談話のポライトネス』、凡人社。

Hinds, John (1976) *Aspects of Japanese Discourse Structure*, Kaitakusha.

Leech, Geoffrey N.(1987)『語用論』、池上嘉彦・河上誓作訳、紀伊國書店。

< 用例出典 >

『朝日新聞』の「いわせてもらお」コーナー、2002年5月4日版。

『いつか大人になる日まで』、紫門ふみ、角川書店、1995。

『コレクター(上)(下)』、小笠原豊樹訳、ジョン・ファウルズ、白水社、1984。

『捨てる!』技術』、辰巳渚、宝島社新書、2000。

『東京発千夜一夜(上)(下)』、森瑤子、朝日文芸文庫、1996。

『現代日本語コース中級』、名古屋大学日本語教育研究グループ、名古屋大学
出版社、1990。

『金田一少年の事件簿』、漫画、金城陽三郎、講談社、1996。

『パーチャス(Purchase)』4月号、ストリート雑誌、(株)ネオ・プラトン発行、
2001。

青空文庫(<http://www.aozora.gr.jp/>)能美武功訳、城田俊監修。

「シンデレラ」、エフゲーニイ・シュヴァルツ作

「脱出」、ミハイール・ブルガーコフ作

主題提示としての「ッテ」の談話機能

「ドンキホーテ」、エフゲーニイ・シュヴァルツ作(セルバンテス原作)

「モリエール」、ミハイール・ブルガーコフ作

「雪の女王」(アンデルセンのテーマによる四幕劇)、エフゲーニイ・シュヴァルツ
作

CD-ROM:

CASTEL/J CD-ROM BOOKDATA(講談社)、日本語教育支援システム研究会 .

CASTEL/J CD-ROM TORADATA(『男はつらいよ』)、日本語教育支援システム研究
会 .

毎日新聞CD-ROM 1991～1999年分 .

無印は実例を一部改編したもの .

